

MATHやらまいか 新聞

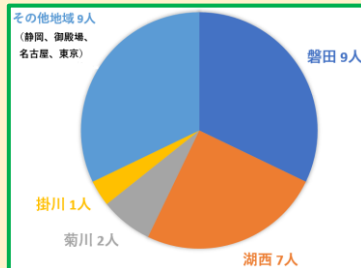
あっぱれじゃ！



出世大名
家康くん

【はじめに】次世代を担う突出した理数系人材を育成することを目指すトップガン教育システム協議会。その算数系の取り組みとして、算数のゲームの得点を競う「MATHやらまいか」は始まりました。MATHやらまいかは「やらまいか」の言葉が示す通り、浜松市内の小学生を主な対象に行われているイベントですが、全国各地子供から大人まで、毎年多数の方が予選問題に挑戦され、その延べ人数は7,000人以上（内小学生6,070人）にも及びます。予選問題の上位30人が出場する決勝大会にも右に示すような各地域からの参加が見られ、盛況を博しています。

さて、2013年に始まったMATHやらまいかは、2022年の今年、第10回目の節目を迎えます。MATHやらまいか新聞ではこれを記念し、また、MATHやらまいかがこれからも長く愛され、続いていくことを願って、MATHやらまいかのこれまで、そしてこれからについて総特集を行いました。ぜひ、楽しんでお読みいただけますと幸いです。



MATHやらまいか決勝大会への
浜松市外からの参加延べ人数

第10回大会開催に寄せて

一人ひとりの得意を伸ばし、理系人材を育成する「MATHやらまいか」が、今年で第10回目を迎えますことを大変うれしく思います。また、本市のキャッチフレーズ「やらまいかスピリッツ」を算数の計算のスピードと思考力を競うイベントとして具現化いただいた関係者の皆さま及びこれまでご参加いただいた皆さまに深く御礼申し上げます。

算数の力は、社会の原動力として欠かせない力です。「MATHやらまいか」が算数の本当の面白さを伝えるきっかけ作りと算数の才能を伸ばす支援に繋がり、参加された皆さまが、ここ浜松から世界的に活躍されることを期待しています。



浜松市長 鈴木康友

本年「MATHやらまいか」は節目の第10回を迎えます。関係者のみなさま、とりわけ強い集中力と執念で毎年挑戦してくれている小学生のみなさまに感謝します。

これまで算数の得意な小学生が活躍できる機会は、スポーツや他の科目にくらべ限られていました。個々の得意を伸ばすことを目的とするトップガンが「MATHやらまいか」を始めたのは、そのような算数の得意な小学生の活躍の場を設けるためでした。問題は年々難しくなっていますが、我々の想像を超える実力を見せてくれる小学生が多数いて、頼もしく感じています。

これまではトップガン内部で問題作成を行っていましたが、「MATHやらまいか」の参加者OBなど、算数ゲームづくりに関心のある人からのアイデアも歓迎したいと思います。10年という区切りを迎えましたが、今後も「MATHやらまいか」を継続し、中高生以上の数学トップガン事業としての数学オリンピックへの参加や「MATHやらまいか」問題作成プロジェクト等をさらに発展させていきたい思います。



結びに、トップガンの活動を支えていただいている浜松市や協賛団体の皆様に心から御礼申し上げます。引き続きの温かいご支援をお願い申し上げます。

トップガン教育システム協議会
会長 木村雅和

MATHやらまいかの過去問題にホームページから挑戦できるようになりました！

MATHやらまいか 検索

または



から挑戦！



NEXT

特集：第1回MATHやらまいか



徹底取材！第1回MATHやらまいかとはどのような大会だったのか？

今年で第10回目を数えることになったMATHやらまいか。秋から冬にかけての風物詩として、毎年挑戦しているという方も多いだろう。本誌では、そんなMATHやらまいかがどのように始まったのか？そして、MATHやらまいかに挑戦してきたかつての小学生たちは今、どうなっているのか？当時の挑戦者と、問題作成者である藤間信久先生に、徹底取材を敢行した。

特集1

第1回 MATHやらまいか ～入賞者たちは、今～

第1回 MATHやらまいかの開催から今年で10年。当時の小学生たちは今、大学生となって活躍していた。本特集では、第1回 MATHやらまいか入賞者の佐藤航さん、山本康誠さん、鈴木直弥さんに、当時の思い出と現在の活躍について語ってもらった。

- ① 当時の思い出を教えてください。
- ② 現在のご活躍について教えてください。
- ③ 最後に、今年度MATHやらまいかに挑戦される小学生の皆さんにメッセージを一言！



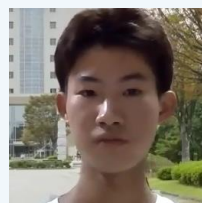
第1回決勝大会
優勝

佐藤 航さん
京都大学 工学部



第1回決勝大会
準優勝

山本 康誠さん
名古屋大学 医学部



第1回決勝大会
第3位

鈴木 直弥さん
静岡大学 工学部

① 当時の決勝の雰囲気はよく覚えています。序盤の問題で苦戦しましたが諦めずに夢中になって取り組みました。

② 京都大学で化学の勉強をしています。身の回りの物質を構成する小さな粒である原子や分子の構造を解明し、新しい物質を作る学問です。私は物質の合成を助ける触媒に特に興味を持って勉強を続けています。

③ 皆さんには粘り強く問題に取り組み、難問と向き合うことを楽しんでもらいたいと思います。夢中になって取り組む経験は必ず自分の糧になるはずです。

① 当時は数字のゲームが好きで、予選の問題は楽しく遊んでいる感じでした。決勝の問題は始めるまで内容が分からないのでドキドキしました。

② 名古屋大学で解剖学・生理学・生化学などの基礎医学を学んでいるところです。医学の中でも特に脳神経の分野に興味があるので機能組織学の研究室に所属して、神経の再生のメカニズムについて研究しています。

③ MATHやらまいかで培った思考力・計算力・スピード力は数学・物理などの理数系の科目を学ぶ上で、大いに役立ちます。将来の夢に向かって頑張ってください！

① 昔から算数が好きだったのでこの大会が本当に楽しくて、毎日パソコンに向かって予選の問題を解いていました。決勝大会の問題も、本当に楽しかったのを覚えています。

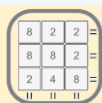
② 光について興味があるので、将来的には光に関するデバイスの研究ができればいいと思います。日々、勉強をしています。

③ 同年代の人たちと一緒に算数のパズルゲームを解く機会は、なかなかないと思います。今日という日を楽しんで、最後まで諦めず、全力を尽くして頑張ってもらいたいと思います。応援しています！

MATHやらまいかヒストリー

MATHやらまいかの魅力と言えはなんといっても手強い算数のパズル。ここでは第1回から第9回までの予選問題を時系列で紹介するぞ。作問者命名による遊び心溢れる問題のタイトルも要チェックだ！

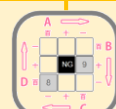
pick up!
カズケツ
2013



四蛇連環
2015



2014
塗りつぶして +Plus+



2016
五節の舞

出世大名
家康くん

特集2

これが第1回 MATHやらまいか予選問題だ！
～問題作成者が込めた“想い”と“願い”～第1回
MATHやらまいか
予選問題

カズケシ

第1回 MATHやらまいか予選問題「カズケシ」は、足し算の答えが指定された数字になるように2～4枚のカードの組を作り消していくというシンプルながら手強い算数のパズルだ。第1回大会入賞者たちが「楽しかった！」と口を揃えたこのパズルは、いったいどのようにして生まれたのだろうか？ 本特集では、第1回から第10回まで一貫して問題を作り続けている、静岡大学工学部教授の藤間信久先生にお話をうかがった。



この9を消すためには-6を作ればいいから……う～む、手強い。

— まずはじめに、MATHやらまいか誕生のきっかけについて教えてください。

藤間先生 ひとりひとりの得意を伸ばし得意のところがたがった児童・生徒を見出すというトップガンの目的を、独自のイベントとして始めてみようということでMATHやらまいかは始まりました。理科については自由研究で地域ごとの賞があり、浜松ダヴィンチキッズも既に活動していたので、**次は算数の得意な子の活躍の場を地域から作ろう**という発想でした。

— 確かにMATHやらまいかの問題はどれもシンプルなのに手強く、難しい公式や問題の解き方を知っているかどうかではなく、**問題についていかによく考えるか（着眼・推理・分析・思考力）という、算数の本物の実力が試されているように思います**。藤間先生は、いったいどのようにして毎年手強い問題を思いつかれるのですか？

藤間先生 世の中にはパズルや数字を扱ったゲームがたくさんあります。でも、これらは色やかたちを合わせるだけ、数字をいじるだけのものが多いです。**MATHやらまいかの問題は、これらを組み合わせ、かたちと数字の両面から面白くかつ深くなるように心がけています。**

— なるほど。最後に、今後MATHやらまいかに挑戦される小学生の皆さんに、応援のメッセージをお願いします。

藤間先生 MATHやらまいかへ積極的にチャレンジできる小学生の皆さんは、私なんかよりずっと数に対するセンスが良く、おそらく脳みその回路が一般の人とはちがいます。**このような才能は、どのような分野でも生かすことができるし、また、その才能が発揮できる新たな舞台を自らの手で切り開いていけるでしょう。**

コラム MATHやらまいか歴代入賞者

MATHやらまいかには浜松市内を中心に全国から大勢の小学生が参加している。第9回までの累計人数はなんと6,070人！ここではそんな大勢の挑戦者の頂点に立った、歴代入賞者たちの名前と学校名を紹介する。

第1回 1位 広沢小 6年 佐藤航さん
2位 附属浜小 5年 山本康誠さん
3位 蒲小 5年 鈴木直弥さん
第2回 1位 可美小 6年 松本陸人さん
2位 蒲小 6年 鈴木直弥さん
3位 附属浜小 4年 牧田和樹さん
第3回 1位 気賀小 6年 金子聖矢さん
2位 曳馬小 6年 酒井辰弥さん
3位 伎倍小 6年 高塚咲季さん
第4回 1位 浜名小 5年 竹内宏太郎さん
2位 白脇小 6年 名倉琉永さん
3位 附属浜小 5年 佐治由洋さん

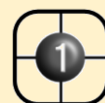
第5回 1位 浜名小 6年 竹内宏太郎さん
2位 大高小※1 4年 齊藤樹さん
3位 萩丘小 5年 内山大樹さん
第6回 1位 蒲小 5年 芥川歩夢さん
2位 萩丘小 6年 内山大樹さん
3位 原里小※2 6年 米山遙紀さん
第7回 1位 東小 6年 渥美諒星さん
2位 附属浜小 5年 松本りくさん
3位 蒲小 6年 芥川歩夢さん
第8回 1位 附属浜小 6年 松本りくさん
2位 和田小 6年 木場蒼士さん
3位 附属浜小 4年 中村幸太郎さん

第9回 1位 浜名小 6年 八木雅仁さん
2位 附属浜小 6年 櫻井純之介さん
3位 附属浜小 5年 大石康介さん
MATH-VIP賞 蒲小 矢作汐里さん
佐鳴台小 堀内陽太さん
附属浜小 櫻井純之介さん

※1 愛知県名古屋市 ※2 御殿場市（特に記載のないものは浜松市内の小学校です）
※ その他、浜松市内各小学校の他、磐田市より富士見小、豊田北部小、豊田南小、青城小、中部小、長野小、湖西市より岡崎小、新居小、白須賀小、掛川市より河城小、城北小、御殿場市より原聡小、静岡市より安東小、蒲原東小、麻機小、愛知県名古屋市より大高小、東京都文京区より金富小の児童が、決勝大会に進出しています！

Check! MATH-VIP賞とは？

小学1年生から小学6年生まで、6大会連続での決勝大会出場という偉業を成し遂げた者に贈られる賞、それが**MATH-VIP賞**だ。偉人を表す“VIP”と6を表すローマ数字の“VI”、そしてPerfectの“P”が掛ったなかなかおしゃれなネーミングだ。

あみだくんヨ！
2017数字のモバイル
2019なかよし三つ子
20212018
数字の宝石箱2020
Math拾わんかMATHやらまいか
まだまだ続く！

そして舞台は、 第10回MATHやらまいかへー



へキサゴンに橋を架けよ！

1か月間の予選会が終わり、今年も得点上位30名の小学生たちが、浜松科学館みらい〜らへと足を運ぶ。若草色のTシャツを身に着けて会場の指定された席に座ると、緊張のせいかそわそわと辺りを見回したり、かと思えば、机の上の一点を、身動きもせずじっと見つめている。彼らにはいったい何が見えているのだろうか？ それは厳しい予選を勝ち抜き、会場にたどり着いた30人にしか分からない。



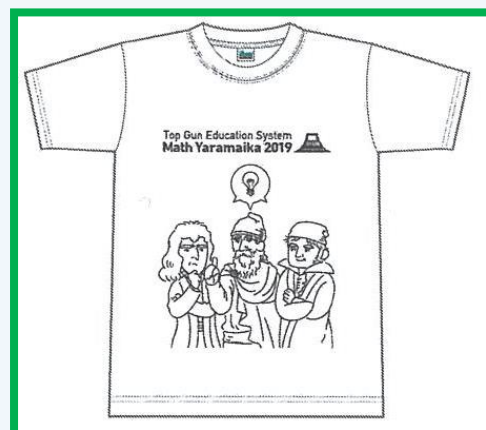
👉 去年の決勝大会の様子。前面のモニターには全員の得点と順位がリアルタイムで映し出され、応援する側にも緊張が伝わる。

決勝大会の問題は、当日会場で発表される。決勝大会の出場者たちは、その瞬間をドキドキしながら待っている。10年前も今も、その緊張感だけは変わらない。さあ、今年はいったい、どんな戦いが待っているのだろうか？ 開会は12月10日、13時。小学生たちはかつての彼らと同じように、その瞬間を待つ。

トップガンの最新情報はこちらから！

トップガン 浜松 検索

今年の予選問題「へキサゴンに橋を架けよ！」は、魔六角陣を使ったパズルだった。1日おきに更新されていく最高得点と順位に、はらはらした人も少なくなかっただろう。何度も挑戦する内に六角陣のパターンを覚えてしまったという人もいたかもしれない。



👉 厳しい予選を勝ち抜き、会場にたどり着いた者だけが着ることを許される名誉あるTシャツだ。実は毎年色が変わっているのだとか。



👉 会場の小学生と一緒に決勝問題に挑戦するトップガン教育システム協議会チーム。静岡大と浜医大が手を取り合って、問題に頭を抱えている。

- 後援：浜松市教育委員会、湖西市教育委員会、磐田市教育委員会、袋井市教育委員会、森町教育委員会、掛川市教育委員会、菊川市教育委員会、御前崎市教育委員会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送
- 協賛：株式会社CAIメディア、浜松いわた信用金庫、須山建設株式会社、丸八不動産株式会社、株式会社ソミック石川、第一印刷株式会社、株式会社丸八、株式会社ヤマザキ、株式会社アース、日研フード株式会社、やまと興業株式会社、ヤマハ株式会社、静岡銀行、浜松委託倉庫株式会社、日管株式会社（以上、順不同）
- Special Thanks：第1回～第10回 MATHやらまいかに挑戦してくれた6,000人以上の小学生の皆さん！